

花まるたより

2021.12



母逝く

コロナパンデミックの二年目が終わろうとしています。これを書いている時点では、いったん収束したように見えますが、海外には過去最高の感染者数を記録したり暴動が起きたりしている国もあり、引き続き警戒は必要です。いわば、とりあえずの、ほっと一息。それでも、感染拡大真つただ中の不安を思えば、本当にありがたいことです。

さて、そんななか、11月に母が急逝しました。認知症も進行しきって久しく、あちこち病気を抱えてはいたのですが、3月に亡くなった父を追いかけるように、天に召されました。よく一緒に旅行する仲良し夫婦ではあったので、父が寂しくて呼び寄せたのかもしれない。施設でも大切にされていたので、本人の自慢であった肌もツルツルで、叔父いわく「仏像みたい」な安らかなで穏やかな死顔でした。

母は、笑顔の姿しか覚えていないくらいいつも笑っていました。「私たち（きょうだい）がかわいくて仕方ないんだな」と、感じられたものです。思い出は無尽蔵にあります。

小一くらいだったか、家族旅行で夕食のとき。父も母も「ご馳走ですね」「おいしかー」と言いあっているのですが、私は「うちのごはんの方が、断然おいしかー」と、心底の気持ちで言いました。すると母は「あらー、ありがとう。嬉しかねー」と、喜んでいました。またあるとき、テレビに美女の誉高い女優さんが出てきた際、やっぱり、きれか（きれいな）ねー」と呟く母とテレビを見比べながら、私はこれも心からの想いで「お母さんの方がきれいかよー」と言いました。そのときの満面の微笑みも忘れられません。多くの男の子と同じように、私にとっては、世界で圧倒的に偉大な存在であり、女神でした。

思えば私の人格や性格の傾向の、ほぼすべては、母の影響を受けています。満身に無償の愛を注いでもらったことが何よりも大きいですが、人を笑わせるのが好きなことは母譲りです。たとえば、ねじ巻き式の目覚まし時計のねじの故障が、ジリジリジリというけたたましい音が、飛び飛びのか弱いチリン、チリンという音になったときに、「あらー、やさーしゅうなんなつたばい（とても優しくなられたね）」と擬人的に表現し、私は意表を

突かれて笑い転げました。常にそういうちよつとした笑いを仕掛ける人でした。

私たちの情操教育のことを考えていたのかもしれないが、クラシック音楽が好きで、寝る前の時間には、モーツァルトやショパンのレコードをかけてくれて、これはすごく好きな時間でした。長じて私は、音楽を仕事にしようかと考えるくらいに音楽好きになりました。

驚かせることも好きで、あるときは、ホースをいったん風呂に沈めて片方の口をふさぎながら風呂桶の外に出し、お湯を出してみせる。あるときは、暗闇にわざわざ連れて行って、化繊の服を脱いでパチパチと静電気の光が輝くのを見せる。そんなことをしては「ほらー」と、ビックリさせてくれました。手作りの実験教室のようなもので、私が理科好きに育った土台でしょう。

子どもらしい全幅の愛着から、少しずつ自立に向かって離れていった感覚もよく覚えています。幼児期は母の膝を枕に、くっついて耳かきしてもらった時間が好きで、姉や弟と競い合っていました。少し成長して耳かきは自分でやれるようになった四年生のとき、潮干狩り遠足に電

高濱の本棚

新刊情報

『マンガでわかる！
10才までに知っておきたい名作120』
高濱 正伸・平沼 純 監修（永岡書店）



10才までに知っておきたい文学作品を120タイトル収録。物語を中心に世界各国に伝わる神話や伝説、有名な童話や落語など、日本・世界の名作文学が満載です。1話5分で読めるので、興味をもったところから、楽しんで読み進められること間違いなし。読解力がつくことはもちろん、中学受験にも役立つ1冊です。

『げっけいのなし
いのちのはなし』

おおいし まな 作 ふかい あずさ 絵（みらいパブリッシング）



親からの相談でなくならないものに「性教育」がある。「赤ちゃんはどこから来たの」というような子どもの素朴な質問に戸惑う親も多いのではないかと。『げっけいのなし いのちのはなし』は、生理・性交・出産などについて、生活の中での子どもの質問に答える形で、母が優しく語りかける内容の絵本。小学校の低学年くらいまでに、子どもと一緒に読むことは、性への健全な認識を育てておこう。

車で行った帰りのことです。人吉駅についてみると、ほかのお母さん方は迎えに来ているのに、私の母だけいない。「ま、仕方ないか、別に自力で帰れるし」と、トボトボと自宅に向かっていった人吉橋の上で「わっ」と後ろから両肩を叩く人がいる。振り返ると笑っている母でした。何かがあって遅くなったとのことでしたが、そのときのホッとした安心感は忘れられません。

さらに成長して、私は熊本高校に進学し、学校に近い熊本市の伯父の家に下宿して、野球部に入りました。スポ根時代の昔でもあり、一年のうち360日は練習するような厳しい部活だったので、なかなか実家に帰れません。思春期の私はしかし「清々するぜ」と、親元から離れた生活を満喫していました。ところが高二だったか、年末に帰宅したものの、正月早々に練習スタートということで、母の運転する車で駅まで送ってもらい「じゃあね」と颯爽と電車に乗り込みました。ところが、見送る母が少しずつ遠ざかっていくのを見たときに、不覚にも涙がボロリボロリとこぼれてしまったのです。甘えん坊の幼児期の残滓がわずかに残っていたようです。

さて、葬儀に人が集まると（といっても家族葬で親戚だけでしたが）、亡くなった人の思い出を語りあうものです。父の

ときも「へー、そうだったのか」というエピソードをたくさん教えてもらったのですが、今回も聞いたことのない話がたくさん出ました。なかでも興味深かったのは、叔父と叔母の思い出話です。叔父は田舎町から熊本高校に進学したので、勉強ができる叔父さんだと思っていたのですが二人によると「幸子姉さん（母のことが、きょうだい5人の中で一番頭が良かったもんね）」というのです。しかし、

当時は女性に学歴なんて不要だということもあり、看護学校を選ばされたということでした。父が優秀で飛び級をしていたことを、母はよく持ち上げていましたが、本当は高校を諦めた悔しさを抱えていたんだなと知りました。高校にはずっと憧れがあったようで、子育てをしながらNHK学園の通信教育で高卒資格を得ました。そのスクーリングで熊本市に出かけるときには、子ども三人もついていて、勉強中は外で遊んで待ち、終了後は饅頭を買って一緒に電車で帰りました。その往復ともにずっと黙って一心に勉強している姿は、私の基本的な学習への態度を形成したと思います。「勉強しろ」と言わずとも、背中であえてくれたのです。

一番おもしろかったのは、小学校時代のボス話です。同級生に「三銃士」とあだ名のついた、有名な女子のワルコ（不良のこと。悪態をついたり喧嘩をふっ

けたり、相当であったようです）三人組がいたのだが、彼女たちに「一の家来」「二の家来」と名付けて指令を出していたのが、母だったのです。実は小三でしたか、近くの中学校で、私が中学生を窓の下からからかったら、走って降りてきて追いかけれ、とうとう捕まってボコボコに殴られたことがあったのです。いつでも優しい優しい母でしたが、そのときだけは不動明王もかくあるかという迫力か！と怒っていたことがあったのですが、小さい頃からかなり気が強い人だったのだなと知りました。

初めての中間試験で学年一位だったとき、合唱コンクールで優勝したとき、高校野球の公式戦で外野からバックホームで刺したとき、大学に合格したとき、初めて本『小3までに育てたい算数脳』（エッセンシャル出版社）を出版したとき……。みなさんもそうでしょうが、絶対の愛をくれた強い母が、ホクホク顔で嬉しそうにしていることが、いやそれだけが、ただただ自分が見たいものでした。

この一年で、両親をともに失くし、二度の喪主を経験しました。小6でしたか、どんな親孝行をしてほしいかという話になったとき、「なーん、親より後に死にさえすればよかとよ」「そぎゃんそぎゃん、元気でいればよか」と言いあっていた母と父に、最低限の親孝行はできたのかなと思います。一見優等生で育ちながらの迷走の三浪四流。十代後半から二十代いっぱい失望させ、大いに手を煩わせ、結婚が決まったとき妻に「本当に、うちの子でよかとですか」と聞いた母。いつもずっと、私の心の中心にある太陽でした。

新しい年がやってきます。予断を許さない状況はしばらく続くでしょう。しかし、嵐のときは嵐をしのぎ、大雨ならばそのなかでできる最善を尽くし、晴れ渡る日には喜びを分かち合いながら、助け合っていきましょう。大人たちこそ、一日に感謝し満喫して、元気に歩いていきましょう。

みなさまで家族が、愛と信頼と安らぎに満ちた一年となりますよう。

高濱 正伸

花まるだより 2021年12月号

(令和3年12月15日発行)

編集・発行 株式会社こうゆう
花まる学習会
発行人 高濱 正伸
企画・編集 久慈 菜津紀
編集 金井 彩・清田 奈南
坂田 翔・高橋 奈穂
デザイン 春日 梨沙
印刷 アークランド株式会社

〈見本(1,2年生)〉

Point 1

Point 2

Point 3

7つの力

・週1回、1時間半という短い時間の中だけでも、〇〇のことを
しっかり見ていただけていることがわかって感動しました！



みんなの
手づくり
なぞペー

かぞく はな
家族みんなで花まるタイム♪

とくべつへん
特別編

こんげつ

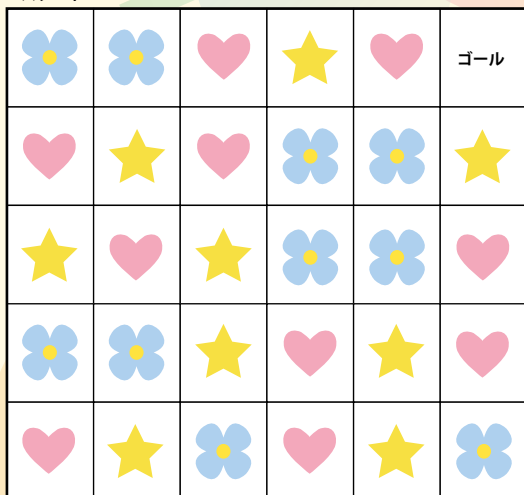
今月のレインボータイム

【かたちめいろ】

🌸 → 🍷 → 🌟 のじゅんで、
ぜんぶのますをとって
ゴールをめざそう。
ななめにはすすめないよ。



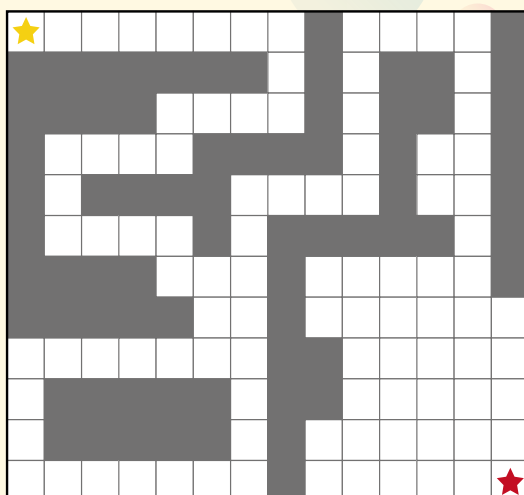
スタート



お茶の水教室：ほらぐち かりん さん

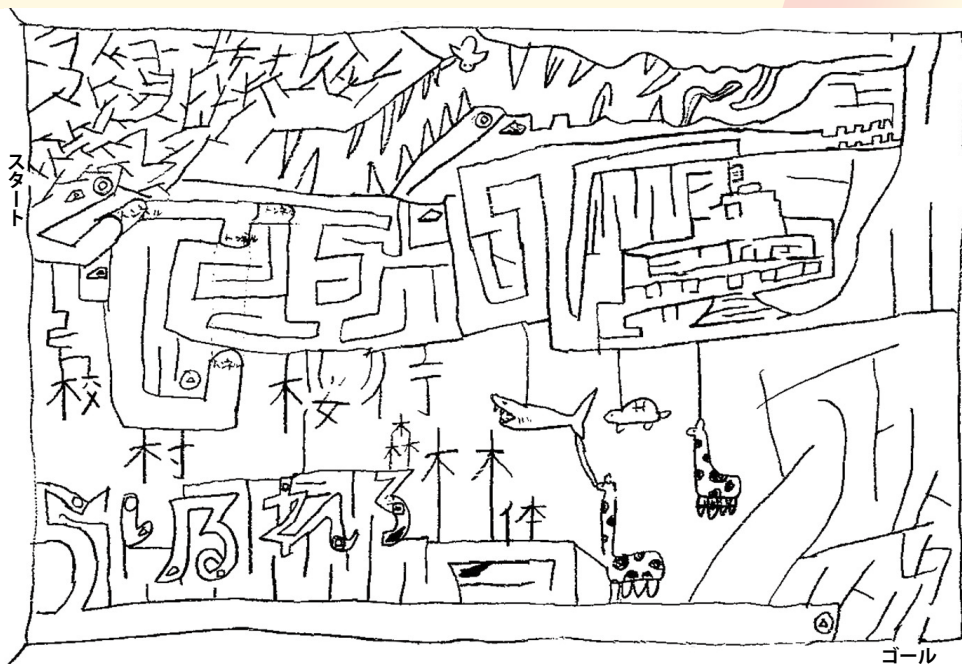
【全部通って迷路】

しろ ぜんぶとお
白いマス^を全部通って、🌟と🍷を
つなぎましょう。
おな みち とお
同じ道は通れません。
すす
ななめにも進めません。



西城幼稚園教室：ほそみりお さん

かんじどうぶつめいろ
【漢字動物迷路】おなじマークのところはワープできるよ。トンネルに入ったらまっすぐのところに^{はい}出るよ。



オンライン教室：しもむら ゆいと さん



すうりきょうしつ
数理教室

アルゴクラブ

ろんり ちから
『論理』の力を、
キューブや
パズルで！

【アルゴ生からの挑戦状！】

～アルゴクラブの生徒がつくった
詰めアルゴを解いてみよう！～

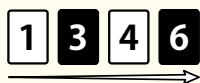
↓
アルゴゲームの途中の状況を設定し、問われたカードの数を
検証するゲーム。

アルゴゲームとは…

数字の書かれた白と黒のカードを使って
隠れている数字を推理するカードゲーム。

ルール

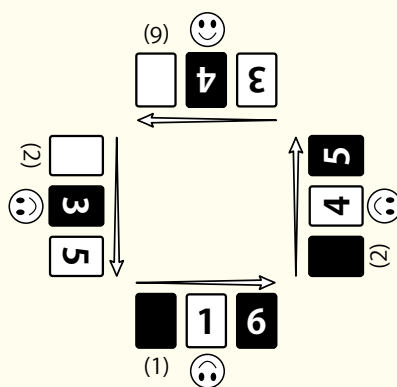
①左から小さいじゅんにならべるよ！



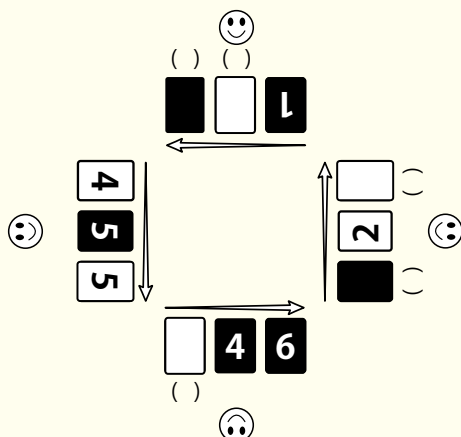
②おなじ数字があったら黒の方が左だよ！



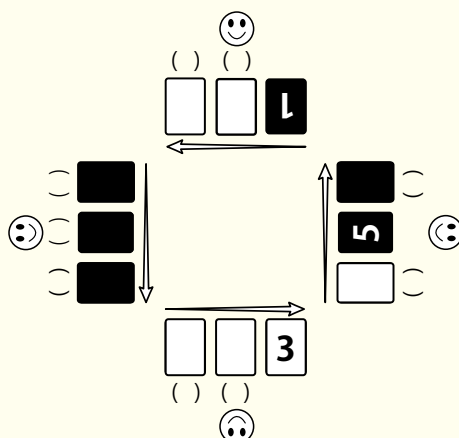
れい 白と黒の1～6のカード



れんしゅう 白と黒の1～6のカード



レベル5 白と黒の1～6のカード

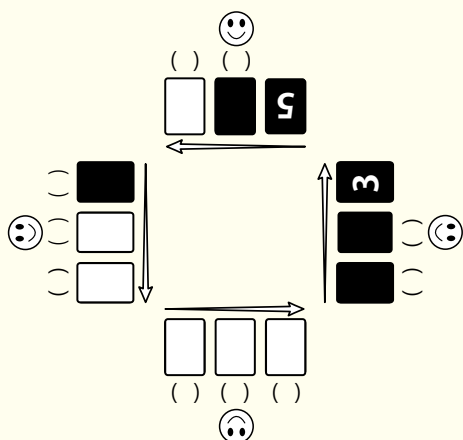


オンライン教室：たかはしなおさん

【度胸】小学生のころは極度の緊張しいで、ここぞという大舞台で成果が出せない子でした。そのたびに、母は私の胸に手をあてて「度胸！」とエールを送ってくれました。たった一言ですが、この言葉で「次こそはやってやるぞ！」と何度も奮起しました。「度胸」は私のエナジーワードです。一生井ちま（ちまりー）

レベル 10

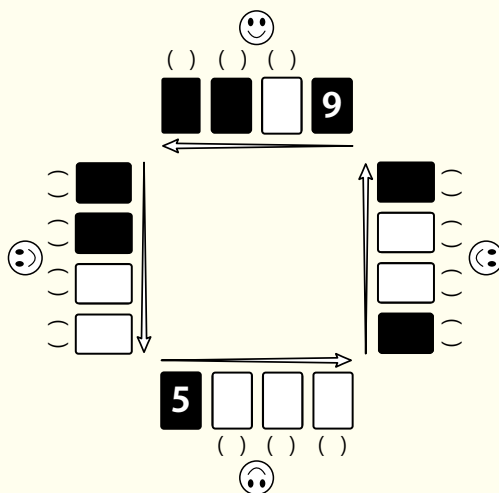
しろ くろ
白と黒の 1～6 のカード



オンライン教室：こにし たいき さん

レベル 50

しろ くろ
白と黒の 1～8 のカード



あざみ野教室：つじ ゆうと さん
やまて あつき さん

花まる学習会アルゴクラブ

【対象】 小学 1～6 年生

東京	お茶の水教室……月・火・土曜日 早稲田教室……水曜日 代々木教室……木曜日
神奈川	あざみ野教室……土曜日 辻堂教室……木曜日
埼玉	南浦和教室……金・土曜日
千葉	本八幡教室……土曜日
全国	オンライン教室…火・木・土曜日

2022年度 体験授業
申込受付中!

<https://www.hanamarugroup.jp/algo/>



数理教室アルゴクラブとは

花まる学習会をベースとして立ち上げられた、数理教室アルゴクラブ。数理的思考力を「まったくの遊びとしか感じられない空間の中で伸ばす」ことをテーマに、子どもたちの大好きなパズルやカードゲームを扱った授業を行っています。

こんな力が育ちます！

- 集中して考え抜けるようになる！
- 自分で判断、決断できるようになる！
- 試行錯誤を楽しめるようになる！
- 論理的に考え、筋道立てて説明する力がつく！
- 礼儀・マナーが身につく！
- 相手がどのように考えるかという視点が身につく！

花まる リビング⑧

勝谷 里美

花まる学習会の教室長を担当しながら、花まる学習会や公立小学校向けの教材開発や、書籍出版に携わる。現在は、2児の母として子育てに奮闘中。著書に『東大脳ドリルこくご伝える力編』『東大脳ドリルかんじ初級』『東大脳ドリルさんすう初級』（学研プラス）ほか



エネルギーがぶつかり合う、きょうだいげんか

花まる教室長時代、きょうだいげんかのご相談を、よく受けていました。かくいうわが家も…7才娘と5才息子が、ことあるごとにぶつかる毎日です。

「自分が、おねえちゃんより先に、玄関から出たい!」と大泣きする弟。

「Aが、ねえねの、おもちゃを勝手にさわった!」とへそをまげ続ける姉。

「いい加減にしない!!!」と、かーっと沸騰する日もあれば、「もう、そんな些細なことでまたけんか、勘弁してよ」と、心からうんざり、という視線を子どもに送ってしまうこともあります。

高濱が講演で、「きょうだい間で、母親からの愛情の争奪戦がある」という話をしますが、「そんなに愛情足りていないのかな…」と、自己嫌悪に陥ることもあります。

ある日、この本を読み聞かせの時間に読みました。

内容をご紹介するとネタバレになってしまふのですが、姉が弟の誕生日プレゼントとして買ったおいたチョコレートを全部自分で食べてしまつて…でも最後には、あるきかけで家族みんなが「ニコニコ」で終わるストーリーです。



『このここのチョコレート』

B・K・ウィルソン 作
大社 玲子 絵
小林いづみ 訳
(こくま社)

何に驚いたかというと、それこそわが家でもそんな事件があれば、「大ケンカ!!!」の場面にもかかわらず、本の中では、「ケンカ」「仲直り」や、「ごめんね!」というくだりが…一切ないのです。

大人の私から見たら、「えー、弟は、自分の誕生日プレゼントを姉に食べられたのに、そんなに簡単に許しちゃっていいの?」と思つたのですが、一緒に読んだ子どもたちは、「けたけた」笑うだけで、「仲直り」がないことに関しては一切頓着していない様子でした。

そのとき、ああ、「振り返らない」「こだわらない」「忘れっぽい」のは幼児の特性そのものだったな、と思い出しました。

きょうだいげんかの内容に対して、大人は深刻に悩んでしましますが、子どもたちは、もしかしたらそれほど内容を深刻視していないのかもしれない。ただのエネルギーのぶつかり合い、と片付けるのは乱暴かもしれませんが、生命力あふれる生き物と生き物が同じ場所にいたら、必然とぶつかり合ってしまう感じでしょうか。

子どもたちを観察していると、きょうだいを向き合せて「仲直り」させるよりも、その「エネルギー」を別の方向に発散させた方が、いい具合にまとまることが多いことに気づきました。

わが家では、工作などをするときに、向かい合つてさせるよりも横並びに座らせるほうが、自分の目の前のことに集中してけんかが減ります。空間が広い場所（公園など野外は特に）で遊んでいるときにぶつかりあうような大きなけんかはあまりしません。

また、一時期、きょうだいで「近所の田んぼの力エールを捕まえる」ブームがあったのですが、そのときはこちらが驚くぐらいのチームワークを発揮していました。コロナ禍で室内遊びが増えて、日々の小競り合いが絶えなかっただけに、その「外での仲の良さ」はとても貴重で……。

子ども同士エネルギーをぶつかり合わせないためにも、解放された空間での外遊びは大切だなあ、と実感しました。

ちなみに、子ども同士が言い合っていたり、険悪な雰囲気を出していたりするときに、そちらにはまったく構わず、親が好きな絵本を朗読し始める、という手も、わが家では効果的でした。けんかのことはさっと忘れて、横に来て聞き始めて、結果「あれ? さっき何でもめていたんだっけ?」ということも。

十人十色、ご家庭それぞれのきょうだいげんかの対処法があるかと思えます。やがては親の手を離れていき、そんなけんかの時間も懐かしく感じるのかもしれませんが…。困っている今の時間にも、何かひとつでもご参考になれば嬉しく思います。

“職人”の無人島レポート

その9

開拓団受け入れに向けて、カトパンとともに無人島へ向かった“職人”こと、橋本。 “職人”による無人島レポートをお送りします。

100年先の渡し方（来島）

撤収の準備を始める。すっかり乾いたテントからポールを抜き、中に入った砂を捨ててから、2人で少しずつ畳んでいく。島に残していくものと、持って帰るものを分けていく。細かいものは大型のコンテナに収納し、開拓用の農具と一か所にまとめる。それに隙間なくブルーシートをかけて、重りで端を留める。いずれは収納用の小屋を建てたいが、いまはこれでしる。それが終わると、自分のバックパックをまとめる。寝袋、食器、火燭し道具、エイドバック、ナイフ、ロープ、タープ、衣類、毛布。

アウトドアの持ち物は種類が多いが、うっかり忘れると困る、というより命にかかわることがあるので、準備に気を遣う。ただ、先人の知恵は、こういうところにも行き届いているものだ。必要最低限の装備について、「5つのC」という基準がある。Cutting（切る）、Cover（覆）、Combustion（火）、Container（器）、Cordage（ひも）。これを念頭に準備することで、忘れ物をしづらくなる。

すべての荷造りを終えると、一息ついた。実際に島で過ごしてみても実感するの

は「生きるためには、島の資源を切り崩して使わなくてはならない」という事実だ。一泊二日の間でも、我々は薪を集め、燃やし続けた。今回は、枯れていたり、落ちていたりする木で賄えたので、新たに木を切り出すことはなかったが、数か月の間、何十人も子どもや大人が来たら、簡単にはいなくなる。いまは考えられなくても、将来的には、島の環境を守るために、薪を持ち込むという判断もあり得るのかもしれない。いまは、邪魔になるくらい木がたくさんあるように見えるが、これは元々、何十年も人が入らなかったことで、この島に蓄積された資源だ。

今後、島内を探索するためのルートは、何度か人が通ることではっきりと道になっていくし、それとともに、その周囲の藪も切り拓かれていくだろう。また、島の周囲の磯には牡蠣をはじめとした生き物が群生していて、食べることもできるが、これを毎回メニューに加えていたら、おそらく自然の回復が追いつかない。設備を作る際の資材についても同様で、例えば階段を作るにしても、ある程度の太さの木が何本も必要になるが、切り続ければいずれなくなる。とても単純だが、燃やした分だけ減るし、食べた分だけ減るし、作った分だけ減るのだ。

島で人が活動するということは、多か

れすなけれ、島の環境を破壊することだとも言える。もちろん、無人島教育の環境を作るために、必要な開発は進めなくてはならない。ただ、同時に環境の保全にも目を向ける必要がある。いま島にどんな資源がどれくらいあるのか、私たちの活動はそれにどのくらいのダメージを与えるのか、それが回復するのにどのくらいの時間がかかるのか。情報を集め、持続的な平衡点を探らなければならぬ。無人島と我々が100年先まで共栄していくということは、おそらくそういうことではないかと思う。

1年後の子どもたちへの渡し方と、100年後の子どもたちへの渡し方を、同じ延長線上に考えてみたい。

船が近づいてくるのが見える。岩礁さんだらう。無人島を離れる時間が、いよいよ近づいていた。

（つづく）



カトパン 加藤 崇彰

花まる学習会 無人島プロジェクト責任者。学生時代から、花まるの野外体験に深く関わってきた。現在は広島県へ移り住み、オンライン教室の教室長を務めながら、開拓団の受け入れや無人島開拓の準備を進めている。



職人 橋本 一馬

花まる学習会神奈川ブロック教室長。前職が家具職人だった経歴から、「職人」のモデルネームを持つ。その経験を元に、野外体験「ものづくりの国」、オンライン工作教室など、独特なイベントを担当している。家具製作技能士、狩猟免許など、ちょっと変わった資格や経歴を活かし、「メシが食える大人」に独自の視点でアプローチを行うことが好き。今回、趣味のキャンプ経験を買われ、無人島開拓に喜んで参加した。



読書の旅 コラム 10 ファンタジーで力強く生きる視点を得る

以前、講演会の直後にひとりのお父さんが質問にきました。

「うちの娘は、よくファンタジーを読んでいる。楽しんでるようだが、そんなものばかり読んでいたら、現実に向きあえなくなるのではないかと。将来、現実逃避の癖が身についてしまうのではないかと。もっと、現実的な内容の本を読んだほうがいいと思うのだが…」

多かれ少なかれ、このような考えを持つ人はいるのではないかと思います。

曰く、ファンタジーは「絵空事」であり、現実とは違う。そんなものばかり読んでいたら、そのときは楽しいかもしれないが、この厳しい現実の世の中に向き合って生きていけなくなってしまう、ということ。

こんな質問が来たとき、私はあえて強い口調でお答えするのですが、これはまったく逆なのです。時代を越えて受けつがれてきたファンタジーは、人間世界の普遍的な問題、この現実の「真実」を描いています。善と悪、共生と対立、生きる意味、幸福、人間愛…。その「真実」とは決して目に見えないものばかりではありませんが、そのような現実世界の本質の部分を真正面から、魅力的な登場人物や心躍るストーリー設定で描いたものが、ファンタジーという形式なのです。

つまり、むしろ力のある数々のファンタジーを読むことで、この現実の世界を力強く生きていく視点を獲得することができるのです。

傑作ファンタジー『ゲド戦記』シリーズで有名なアーシュラ・K・ルゥグウィン は、著書のなかで次のように述べています。

「ファンタジーは子どものための物語の形として、子どもに本質に根ざした、もっとも自然なものだ。なぜ、そう言えるのだろうか？ 子どもたちはたいして現実と非現実の区別がつかないからか？ 子どもたちには現実からの「逃避」が必要だからか？」

そのどちらでもない。現実から意味を汲みとるために、子どもたちは想像力をフルタイムで働かせているから、そして、想像力による物語こそが、その仕事をするための最強の道具だからだ。」

（『いまファンタジーにできること』アーシュラ・K・ルゥグウィン 著）

■ファンタジーはたくさん読んでほしい

自著のブックリスト「冒険・ファンタジー」にはほかの項目と比べてあえて多めに本を掲載してあります。どれも、各年代に自信をもっておすすめてくれる傑作ばかりです。

先述のルゥグウィンによる『ゲド戦記』は、言葉と世界の関係など、非常に深遠で多彩なテーマを持った作品。『モモ』や『はてしない物語』に代表されるミヒヤエル・エンデの作品も、さまざま示唆に満ちた奥深いストーリーです。ファンタジーの最高傑作とされるJ・R・R・トールキンの『指輪物語』は、何かを得る旅ではなく、大いなる力を持つ

てしまったものたちが、それを「捨てに行く」という物語。現代社会にも通じるあらゆるテーマが内包されています（さすがに長大なシリーズではあるのですが、その前日譚である『ホビットの冒険』から読むのがおすすめです）。

日本でも、『だれも知らない小さな国』（佐藤さとる）や『木かげの家の小人たち』（いぬいとみこ）などの古典に始まり、異世界で「この世界でいちばんたしかなもの」を探す少年の旅を描いた『二分間の冒険』（岡田淳）など、優れたファンタジーは多くあります。

『ゲド戦記』アーシュラ・K・ルゥグウィン 作／ルース・ロビンズ 画／清水真砂子 訳／岩波書店
『いまファンタジーにできること』アーシュラ・K・ルゥグウィン 著／谷垣晁美 訳／河出書房新社
『モモ』ミヒヤエル・エンデ 作／大島かおり 訳／岩波書店
『はてしない物語』ミヒヤエル・エンデ 作／上田真而子・佐藤真理子 訳／岩波書店
『ホビットの冒険』J・R・R・トールキン 著／瀬田貞一 訳／岩波書店

『だれも知らない小さな国』佐藤さとる 作／村上勉 絵／講談社

『木かげの家の小人たち』いぬいとみこ 作／吉井忠 画／福音館書店

『二分間の冒険』岡田淳 作／太田大八 絵／偕成社

『子どもを本好きにする10の秘訣』

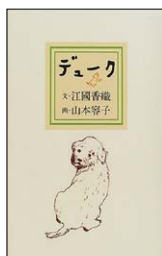
平沼 純・高濱 正伸 著（実務教育出版）



平沼 純（スクールFC）

教育心理学を研究し、「自分の視点を持って考え、力強く生きていく力の育成」を目指して教育の世界へ。国語を専門とする学習塾で読書・作文指導などに携わったあと、花まるグループに入社。現在、小学生から中学生までの国語授業や公立一貫コース授業のほか、総合的な学習の時間である「教科授業」などを担当。多数の受験生を合格へ導くとともに、豊かな物語世界の楽しさ、奥深さを味わえる授業を展開し続けている。





『デューク』

江國香織 文
山本容子 画
(講談社)

飼い犬のデュークを亡くした「わたし」の前に現れた、不思議な雰囲気の少年。クリスマス・ソングが流れる12月の東京を

舞台に、わたしに静かに訪れた奇跡とはー？

短編集『つめたいよるに』収録の珠玉の短編を絵本化。以前12月の連続講座「旅する読書～大人のための読書講座」でも取り上げ、好評をいただきました。ちなみに、この物語が2001年大学入試センター試験で出題された際、試験中にもかかわらず多くの受験生たちが涙を流したとか。



『クリスマス・クリスマス (たくさんのふしぎ傑作集)』

角野 栄子 さく
(福音館書店)

華やかなニューヨークのクリスマス。厳かな雰囲気漂う東欧のクリスマス。一風変わったオーストラリアの真夏のクリスマス…。世界各地のクリスマスの風景を紹介しながら、ツリーやクリスマス料理、サンタクロースなど、クリスマスにまつわるさまざまなものの意味と、そこに込められた人々の願いが紹介されます。2018年に国際アンデルセン賞を受賞した著者による、クリスマスをよりディープに楽しめるようになること請け合いのノンフィクション。



『かこさとし こどもの行事 しぜんと生活 12月のまき』

かこさとし 文・絵
(小峰書店)

知識絵本の大家、かこさとしによる行事絵本シリーズの一冊。全国で数多く伝え

られている「ならわし」や祭り、西洋から入ってきた行事、自然や生活習慣などが幅広く紹介されていて読み応えたっぷり。12月の巻では秩父夜祭、羽子板市、クリスマス、大みそかなどがユーモラスなイラストで解説されています。クリスマス飾りの工作や冬の伝統的な遊びなどの情報も満載。



ひらぬまじゅん
平沼純の

Happy X'mas &
Happy New Year!

Vol.30



『もういちどそのことを、』

五味 太郎 作・構成
寺崎 誠三 写真
(クレヨンハウス)

実は誰もが気づいているかもしれないけれど、身の周りのあんなところやこんなところに、たしかに「いる」もの一。何

気ない日常の風景の中にも、目には見えない大切なものは確実に存在している。絵本作家五味太郎氏による、詩情あふれる言葉と美しい写真で彩られた珠玉のクリスマス絵本。読んだ後、身の周りの何気ない風景を見る視点がきつと変わります。



『クリスマス物語集』

中村 妙子 編・訳
(偕成社)

欧米の家庭で長く読み継がれてきて、現代でもたくさん子どもたちが親しんでいるクリスマスの物語14編をおさめた短編集。

ディケンズなど世界的な作家の作品から、クリスマスを描いた詩、伝説などに幅広く触れることができ、読み聞かせにもうってつけです。現代作家が中心に掲載されている『クリスマスのりんご』（福音館書店）とあわせると、古典から現代まで一通りのクリスマス物語を読むことができます。

全国から
参加可能！



1月 〈第9回〉読む？観る？映像化された子どもの本たち

映画化、アニメ化、漫画化、ドラマ化されることも多い子どもの本。先に原作を読むべきか、映像を先に観るか？それぞれのメリット、デメリットは何か？数々の絵本や児童文学を、「映像化」という観点から読み解きます。

1/20 (木)・1/22 (土) 10:30～11:50

参加費 一家族 500 円 (税込)

申込締切 開催前日の 19:00

<https://www.schoolfc.jp/extension/j-hiranuma/2021/>



ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン

1770-1827 ドイツ

アノネ

vol.29

ラウンジ

Lounge

アノネ音楽教室の作曲家の人生を辿る伝記教材『おべら』の一部をご紹介します！クラシック音楽の作曲家を毎週一人取り上げて、名曲が生まれたストーリーに迫ります！



ベートーヴェン

も じゃもじゃの顔に、いかめしい顔、爛々と光る鋭い目を持つこの人の名前は、ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン。

16歳のときには、音楽の街ウィーンへと旅をするチャンスに恵まれたベートーヴェン。そのころウィーンで活躍していた天才作曲家モーツァルトの前でピアノを演奏します。ところが、モーツァルトは演奏中に部屋を出て行ってしまいます。ベートーヴェンはがっかりしたかもしれません。けれどもこのときモーツァルトは、隣の部屋にいた友人のところへ行き、こう言っていたのです。

「彼に注目しておいた方がいいよ。きっとすばらしいものを世に残すから！」

ウィーンの街で、ピアニスト、作曲家として有名になったベートーヴェン。ますます活動に励もうというときに、試練が襲いかかります。耳が聞こえづら、難聴という症状に悩まされ始めたのです。音楽家にとって耳は命とも言えるもの。ベートーヴェンは、難聴であることを隠すために、家の中に閉じこもりがちになりました。2年ほど経つと、耳はさらに悪くなっていました。ベートーヴェンは、いっそ死んでしまおうかとも考えます。

「自分のやるべきことを成し遂げずにこの世を去るわけにはいかない」

ベートーヴェンが出した答えは、難聴のままで、作曲家として生きていくことでした。ピアニストとしての活動はやめ、作曲だけに集中することにします。(伝記教材『おべら』より抜粋)

『交響曲第9番 二短調《合唱付き》』

Op.125 (1824年)

年末と言えばこの曲！ベートーヴェンの最後の交響曲は、『第九』という呼び名で親しまれています。若い頃からベートーヴェンが大好きだった詩を歌にして取り入れた曲です。「歓びの歌」と呼ばれる有名なメロディーが現れると、歌う人の数がどんどん増えていって、最後には大合唱になり、こう歌い上げるのです。

「抱き合うがいい、数百万の人々よ！」

ベートーヴェンがこの曲で訴えたのは、友人や愛する人のいる人生の素晴らしさと平和への願いでした。

ベートーヴェンの後に続こうとした音楽家たちは皆、どうしたらベートーヴェンと肩を並べられるか、そしてベートーヴェンを超えられるかに悩まされることになります。ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン。その作品に、生き様に、いまでも鳴りやまない喝采が送られ続けている、偉大な作曲家です。

編集：鈴木 有美 (アノネ音楽教室)

<https://www.youtube.com/playlist?list=PL7kd0pC6w0ucOxb6xRttYKplsuzalWxRO>

聴いてみよう
第九を



おうちでできる 花まるメソッド

靴をそろえるのは、心をそろえること

「ではあいさつの前に、靴とカバンがそろっているか、確認しましょう」と声をかけると、のんびり準備をしていたけれど、あわててあいさつに間に合わせようとする子、もう僕は準備万端、と言わんばかりにじつと私の目を見ている子、自分のものだけでなく仲間のはみ出たカバンをそっと整える子…。それぞれに考えた様子で、これから始まる何かに、こころを向かわせ始めます。

「何事始めるにも、最初に大切なことは、整えるということです。靴をそろえることは、こころを整えることだね」そうやって、授業は始まります。

当たり前ですが、ぐちゃぐちゃになった机の上では、集中して何かを始めることは困難です。スポーツ選手は、道具を念入りに手入れしますし、演奏者は楽器を大切に扱います。一流の人ほど、自分が一番力を出せる方法を、持っているものですよ。

かくいう私のアトリエの机は、一年のうちほとんどが整理整頓には程遠い状態です。仕事が終わったとき、いったんまっさらな状態に戻しますが、それまでは進行中のものがいつでも目に入り、道具と素材の間をいつでも行き来できるような混沌さを保っています。ひらめきとインスピレーションを起こしやすい環境を、整えて「いるわけで、片づけない言い訳ではありません(笑)。

さて、古来より「こころ」を大切に扱ってきた私たち日本人にとって、しつけとは、「こころ」を

そろえることを基本にしています。そろったとき、物事はスムーズにいくようになっていきます。「手と手を合わせる」ことも同じで、そこに流れているのは、日々を丁寧に生きる意識。その積み重ねが、「こころ」を大切に扱うこと、そして、素直なこころを作ることにつながります。

「靴をそろえる」。そんな些細なところに、「こころ」は表れます。ことばには意識がのり、意識はこころに自然に働きかけます。子どもたちには概念がないので、より真理に近いところで生きています。意味はわからなくても、感覚で、それが大切なことだと、ずっと理解します。「こころをそろえる」意識が育つのです。それを習慣にするのが、しつけなのではないでしょうか。

普段から当たり前のようにならしている「靴をそろえてね」のことばの中に、「いただきますをしよう」と言う台詞に、「こころをそろえよう」という意識を乗せて伝えてみる。こころの中で思うだけでよいのです。あなたという人格と哲学が、子どもたちに伝わっていく、こころを育て、感性を耕していくはずですよ。

しつけという側面でも子どもに何かを伝えたい、という場合に、そのことばの奥にある届けたいものは何か、ということ、大人の側が意識していったん考えてみる。そうすることで、ことばにせずとも思っただけで、子どもたちに伝わるかどうかが決まってくるのです。みなさんもぜひ、試してみてもう一度か教えてくださいます。こう考える

と子育てはいつも、私たち大人が鍛えられ、成長させられるものですね。感謝とともに、年始をお迎えできますように。
また来年もどうぞよろしく願います。

Rin (井岡由実)

1月のオンライン Atelier for KIDS

1/16 10:30 ~ 12:00 カレンダーコラージュ
対象 小学1年生~中学生 36名(抽選)
(年長の方はご相談ください。)

参加費 1名 2,900円
(税込・材料郵送費込)

申込締切 12/22(水)19:00

<https://www.hanamarugroup.jp/art-edu/news.php>



Rin (井岡 由実)

花まる学習会取締役、「ARTのとびら」主宰。児童精神科医の稲垣孝氏とともに、心を病んだ青少年たちへの専門的な対応に専心。花まる学習会年中・年長向け教材開発に携わり、冊子『1年生になる前に』では、幼児期に伸ばしたい能力や感性の教育について論じる。著書に『こころと頭を同時に伸ばす AI時代の子育て』(実務教育出版)ほか。



※ ART のとびら公式 YouTube では、Rin コラムを音声で聞けたり、保護者の方からの相談に答えたりする「アトリエ RADIO」、工作好きな子どもたちのうち ART を応援する「Rin 先生が作ってみたよ」シリーズなど、盛りだくさんです。



はな まるの教室長を紹介します！



花まるファミリー



FC ...スクールFC

🎵 ...アノネ音楽教室

アルゴ ...アルゴクラブ

🌐 ...オンライン

🌴 ...無人島

GONOU ...GONOU 囲碁教室

きょうしつちよう じゅんぱん しょうかい たの
みんなの教室長も順番に紹介するよ。お楽しみに！



リーダーネーム

名前

出身地

所属

サマースクールや雪国スクールで会おうね！

12月の誕生花は ポインセチア

小学生時代、『フルーツバスケット』（高屋奈月 著/白泉社）が大好きでした。引っ込み思案だったため友達にからかわれることが多かったのですが、登場人物の行動やセリフから、自分から相手に歩み寄ることの大切さを学びました。—石橋脩（オーシャン）

最幸のクリスマスプレゼント

「自分はこんなにも応援されている」と気づいたとき、人は何倍も強くなれる。私がそう信じるようになったきっかけを綴ります。

私は高校2年生と3年生の時期をニュージーランドで過ごしました。ここでの失敗体験や成功体験は、自分を大きく成長させたことに間違いはありません。しかし、自分が今までの何倍も強くなったと感じたのは、ニュージーランドから日本に帰ってきた直後でした。

高校1年生の夏、留学したいということを私は家族に相談しました。私は、慎重かつ従順な長女だったので両親は驚いたそうです。しかし、そんな私だからこそ冒険をする良いチャンスだと思い、両親は背中を押してくれました。一人で異国へ飛び立って1年。主体的に勉強をしている自分、英語が上達している自分、友達との輪を広げている自分。自分がパワーアップしていくのを感じました。だからこそ、もっともっ

と様々なことにチャレンジしたい。2年目もニュージーランドで過ごしたいとわがままを言いました。そのときも両親は「行ってこい!」と笑顔で背中を押してくれました。

2年後、ニュージーランドの高校も無事卒業し、日本にいる家族のもとへ帰ってきました。「ありがとう!」両親に真っ先にそう伝える予定でした。しかし、明らかに父の様子が違うのです。父は末期の癌でした。私は知りませんでした。私がニュージーランドへ飛び立つ数か月前、父は癌で余命半年と宣告されていたのです。母は、留学をキャンセルすることも考えたといいます。しかし父は、「自分のせいで娘が自分で決めたニュージーランド行きを台無しにするわけにはいかない」と最高の笑顔で私を送り出してくれました。そして、生きて私を我が家で歓迎することを目標に約2年間、闘病生活を送っていたのです。

その事実を知ったときはショックでした。ショックでしたが、同時に自分だけでなく大事にされているか、ということに気づかされました。余命が僅

かであれば、残りの時間を家族と過ごしたいと思うはず。しかし、父は自らが頑張って生きること、私の人生を応援することに徹したのです。体は痛かったはず。心は不安でいっぱいだったはず。それでも、私の将来にとってプラスになるだろうと思い、父は異国での私の生活を応援し続けてくれました。父は余命宣告を受けてから3年間生きてくれました。「自分はこの先にも応援されている。こんなにも愛されている」そこに気づいた瞬間、この先どんな環境でも、どんな困難が待っていても、自分らしくやっていけるといふ大きな自信が私の中に降ってきました。私の帰国はちょうど12月の今頃。父が与えてくれたこの大きな自信は、私にとって最高のクリスマスプレゼントとなりました。それは今もそのまま私の中に在り、これからもずっと私を支えてくれると思います。

応援の持つ力は計り知れません。次は私が与える番です。教室の子どもたちが「応援されている」と感じられるように接していきたいのです。

小学生コースの宿題「サボテン」を溜めてしまいがちな2年生の女の子が

いました。定期的に電話をしたり、教室で声をかけたりしていました。するとその年の暮れにその子が手紙をくれたのです。

「あさがとおとサボテンをいつもおうえんしてくれてありがとうございませう。先生がおうえんしてくれたから、サボテンがすきにだんだんなくなってきました! おうえん、ありがとうございました。」

私にとって、とても嬉しい手紙でした。私自身がそうであったように、応援されていると気づくと、自信になり、自ら行動を前向きに変えていきます。これからも応援をすることを続けていき、教室の子どもたち一人ひとりの自信を育んでまいります。

花まる学習会 船水 萌





いろいろな味わいを楽しめる野菜

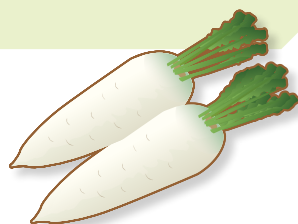
冬の旬野菜は？と聞かれて思い浮かべるのはみなさんの野菜ですか？

いまは、良くも悪くも、一年中いろいろな野菜がお店に並びますが、旬を意識して見てみると、お店のメインとなるスペースに大きく取り上げられていて、お値段的にもうれしいはず。そして、旬の素材は栄養価も高く、そのときに体に必要な栄養素がたっぷり含まれていたりするので、やっぱり旬の素材を食べるということはとても理にかなっているのです。

冬野菜と聞いて、私がまず一番に思い浮かべるのは大根です。夏の大根もありますが、冬の大根はみずみずしく、甘味があって、手にするとずっしり重みもあります。おでんなどの鍋ものはもちろん、大根おろし、千切りにして和え物、サラダ、実は炒めてもおいしいんですよ。

大根ほど、形状や調理によって印象が変わる野菜はありません。大根役者ということがありますが、さまざまな役に染まるとい意味もあるとか…。決して、ネガティブなたとえだけではないですね。

旬の大根、いろいろな料理に使ってみてくださいね。



食のプロからのアドバイス

揚げだし大根

材料

大根……… 1/2 本
出汁……… 200 c c
醤油……… 小さじ 2
酒……… 大さじ 1
みりん…… 大さじ 1
塩……… ひとつまみ

少し手間はかかりますが、ちょっと目線を変えてこんな料理も良いですよ。

おうちでチャレンジ！

- ①大根は洗って皮つきのまま2センチ厚の半月切りにする。
- ② 160 度の油で竹串がすっと通るまで素揚げにする。
- ③ 鍋に出汁と調味料を入れてひと煮たちさせ、水溶き片栗粉でとろみをつける。
- ④ 素揚げした大根に③のあんをかける。